

医療・介護

最前線

長崎県内の地域医療連携システム「あじさいネット」が、製薬や診療システム運用会社と共同で診療計画表（クリニカルパス）のオンライン化を進めている。専門医と地域のかかりつけ医がスムーズに情報を共有することで、重篤な疾病の早期回復や再発防止につなげる狙いがある。

あじさいネット（長崎県）

4月、オンライン診療のイ・イス日本法人のノバルティンテクリティ・ヘルスケア スファーマ（東京・港）と（東京・中央）、ノバルテ 包括連携協定を結んだ。I



利用状況を確認する長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会理事の松本武浩氏（長崎大学病院で）

診療計画表、オンラインで

療所なども共有できる。

「あじさいネット」には38の医療機関が情報を提供しており登録患者数は約14万人に上る。紙ベースで運用していたパスをオンライン化することで、基幹病院の担当医師が作成したカルテや検査結果などを関係者がリアルタイムで共有できるようになった。

長崎大学病院循環器内科の黒部昌也医師は6月、急性心筋梗塞で救急車で運び入れた患者の退院1年後までのパスを作成した。退院後に患者を診るかかりつけ医は、大学病院でのカルテや検査結果を閲覧することで早めに患者受け入れの準備ができる。「患者がかかりつけ医に受診した時の情報の拡大に期待している。」と黒部医師は、連携のさらなる拡大に期待している。（長崎支局長 若杉敏也）

「クリニカルパス」は地域の基幹病院で手術などを受けた患者の回復までの道筋を示す治療計画だ。急性期病棟からリハビリ病院に転院する、あるいは自宅から地域のかかりつけ医に通うといった状況変化を想定して、数カ月から数年の単位で治療のスケジュールをりつけ医に受診した時の情報もチェックできるから、

CT（情報通信技術）を活用した医療高度化の一環として、3者は23年3月に急性心筋梗塞後の患者を対象とする「長崎急性心筋梗塞（AMI）二次予防クリニカルパス」のデジタル化に乗り出した。

長崎大学病院循環器内科

事は胸を張る。

医療現場の効率化も期待できる。必要な資料を添付することで、かかりつけ医は関連する診療ガイドラインなどをワンクリックで参照できる。「診療情報を共有すれば、薬剤師が患者により丁寧に説明できる」と

黒部医師は、連携のさらなる拡大に期待している。

（長崎支局長 若杉敏也）